

令和7年度 とやま 21 世紀水ビジョン推進会議 議事録

日時: 令和7年8月22日(金)

13:30~15:00

場所: 富山県民会館 611 号室

■出席者（五十音順、敬称略）

【委員】

青野 洋徳 （林野庁富山森林管理署長）
麻生 真利 （公募委員）
飯野 美代子 （(公社) 富山県建築士会理事）
上坂 博亨 （富山国際大学現代社会学部教授、富山県小水力利用推進協議会副会長）
尾栢 光江 （富山県婦人会幹事）
川端 栄子 （NPO 法人 富山県自然保護協会副理事長）
楠井 隆史 （富山県立大学名誉教授）
中谷 洋明 （国土交通省富山河川国道事務所長）
谷口 真人 （総合地球環境学研究所副所長）
張 勁 （富山大学学術研究部理学系教授）
藤井 侃 （とやま名水協議会会長、富山県深層水協議会会長）
藤本 孝子 （富山大学学術研究部教育学系准教授）
不破 光大 （魚津水族博物館学芸員）

【欠席委員】

武隈 義一 （黒部市長）
宮田 義人 （富山県土地改良事業団体連合会専務理事）

【事務局】

竹内生活環境文化部長、熊本県民生活課長
ほか関係課担当職員

.....

■ 会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について
 - (2) 水に関わる新たな動きや取組み等について
 - (3) 水ビジョンの改定について
 - (4) 水源地域保全条例に基づく届出状況について
- 4 閉 会

.....

- (1)「とやま 21 世紀水ビジョン」に基づく各種施策の進行状況等について〔事務局説明〕
- (2)水に関わる新たな動きや取組み等について〔事務局説明〕
- (3)水ビジョンの改定について〔事務局説明〕

【議長】

議題の(1)、(2)、(3)について、ご説明いただきました。今ほど説明ありました内容に関しまして、質問、それからご意見をお願いします。

【委員】

2つありまして、資料1の5ページの実現目標の達成状況の中で、⑦水質環境基準の達成率が現況96%となっていますが、昨年度資料では100%となっている点について、この数値が減少したのは何故かというのが1つと、PFASの話で資料2の10ページに調査結果が実際に出ているのですが、実際にこれが飲料水となったときに数値の変動があるものなのか教えていただきたいです。

【事務局】

まず1つ目の環境基準について、令和5年度は100%達成、令和6年度は96%になっているというご指摘につきましては、水質の調査の方を河川、湖沼、海域で行っており、河川と湖沼につきましては、100%達成しております。海域の方は、富山湾の沿岸海域で何地点かの水質調査の中で、25地点ほどあるうちの3地点で、年間評価としては基準が達成できなかったというところなんです。この年間評価のやり方は、海では毎月、年12回で水質測定しておりますが、その中で3回までなら基準値を超えても年間評価は大丈夫ですが、4回目を超えることがあるとバツということになりまして、海域では4回以上というところが3地点ございましたので、今回100%にならなかったということです。海域につきましては、特に何か汚いものが流れてきたとか、そういったようなことが原因ではないと考えております。内部生産と言ったりするのですが、日差しや水温といった条件がそろると、植物プランクトンが増殖しやすくなって、分析したときに検出されることになってくるのですが、そういった自然物由来のものが原因と考えております。海につきましては太陽の照り具合や、そういったところが大きく左右する要因になってきますので、昨年度は100%とはならなかったのですが、また回復することもあるかと思しますので、中長期的に状況を見ていきたいと考えております。

もう1つPFASにつきましては、ちょっと飲料水のところにつきましては生活衛生課の方をお願いしたいと思いますが、昨年度実施しました調査の関係でいいますと、今回は問題ないということが確認されておりますので、現時点では今後さらに調査す

ということとは予定しておりません。また、先ほど説明が抜けましたが、この河川と地下水の調査というのは、県内の富山市以外のエリアで実施したもので、富山市内は富山市が今年度調査されているということになっております。まだ結果については公表されていないので分かりませんが、県の調査につきましては問題ないということが確認されておりますので、更なる調査方法は今のところ考えていないということでございます。

【事務局】

水質に関しましては、昨年国が水道事業者を対象にして、PFOS・PFOAの実施状況とその結果について調査をしておりまして、富山県の水道事業者が実施している中では基準値を超えているものはなかったという結果であります。今年度も調査が実施されておりまして、昨年よりも実施されている事業者が増えている状況でございます。現段階で調査されている事業者に関しては基準を超えているものはなかったということです。

【委員】

最初の水質汚染の海域の話ですが、実際、昨年度まで能登半島地震があつて、先ほどは何か日射の照り具合でという話だったと思いますが、地震の影響とかはあったのでしょうか。

【事務局】

地震の影響と考えられるようなものは水質調査の中では確認されております。

【委員】

災害時活用井戸のデータ整備事業について、マップ上に取りまとめた井戸データ等について、市町村に説明・提供とありますが、どのように市町村に情報提供していくのでしょうか。

【事務局】

災害時活用井戸のデータ整備事業につきましては今、アンケートをやっているところで、手押しポンプなのか、電気ポンプなのか。あと、多分あまりないとは思いますが、つるべ式なのかというところをお聞きしていて、そういう情報も一緒に市町村の方には提供したいと考えております。おそらく、断水と大きい地震のときは両方あると思いますが、おそらく電気の方が、復旧が早いのではないかなというふうに考えております。電動ポンプを使っているところにつきましても、そういう情報が必要だろうということと、災害発生時、断水が続いていても、電気が復旧すれば、井戸水を使えると考えておりますので、その方向で市町村の方でも検討いただきたいと考えています。

【委員】

もう1点、水道インフラについて、昨年度に震災を経験した影響もあることからこちらの方も急ピッチで整備を進めていかなければならないのではないかと考えておりますが、その時間的スケジュール感を教えていただければと思います。

【事務局】

国交省の方でも上下水道は一体となって改修を推進していかなければならないということと、能登半島地震では耐震化が進んでいるところとそうでないところが明確に分かれたというところで、耐震化は進めておかなければならないと考えており、補助制度も拡充しております。国の方から求められているのは、各市町村で計画を立ててくださいということをおっしゃっておりまして、耐震化を進めています。

【議長】

私の方から、2つ目の質問の災害時活用井戸データ整備事業について説明したいのですが、質問にありました電動式の井戸とそうでないものでは大きな違いがありますし、もう一方、自噴しているものとそうでないものも大きな違いです。自噴している井戸はそれだけ大きなエネルギーをかけずに水が運ばれてきているのを我々使えるわけですが、整備されるときには井戸の種類についても考慮していただければと思います。もう1つは災害の井戸事業は内閣官房が日本全体で進めている政策ですけれども、一方でそれぞれの地域の特徴は水の使い方だと思っております。例えば、能登島は湧水がたくさんあって災害時に利用できたということがあります。富山も湧水がたくさんありまして井戸だけでなく湧水も災害時に使える可能性があると思っております。データを整備されるときに全体に行っている事業として井戸整備もそうですし、加えて山側では、富山ならではの湧水のポイントを押さえた上でデータ化していくことも必要だと思ったので活用していただければと思います。

【委員】

資料1の1ページの施策ごとの実績というところで、ここに出てきている人工林と保安林の数値が何の数値かわからなかったのもその辺の数値について分かれば教えていただきたいと思っております。また保安林について、県内の保安林の指定率はどのくらいなのかについても教えていただきたいです。

【事務局】

資料1の1ページ(1)に人工林の面積が示されていますが、51,482haは富山県内の人工林面積で、下の保安林面積220,853haも富山県内の保安林面積となります。保安林面積率ですけれども、正確な数字は把握しておりませんが、6割以上あって全国1位の割合が高い県となっております。

【委員】

資料1の5ページの①森林整備延べ面積の現況 42,257ha は、51,000ha のうち 42,000ha を間伐したという解釈でよろしいでしょうか。

【事務局】

まず、天然林では間伐しておらず、延べとなっておりますので2回目の間伐も含めてこの数字ということでご理解いただければと思います。

【委員】

資料1の11ページの地球温暖化の中で、小水力発電の新規導入に向けたマッチングの支援をさせていただいているということでご報告をいただきました。いくつかの地点でマッチングをさせていただいているのは承知しております。大変ありがたいと思っております。小水力発電を行う適地の調査は意外と難しく、ご担当者の方は苦労されたのではないかと思います。探す苦労ではなく、よいと思う地点には人が集まるので揉め事が起きないようにする苦労でありまして、そういう地点を誰が開発するかは重要なことではありますが、河川の中で適切な地点を選ぶのは難しいので、それを体系的に行っていく仕組みを作ることは必要だと思っています。環境省では REPOS というデータベースがありまして、再生可能エネルギーでポテンシャルデータベースというのです。もちろんその中には太陽光、風力といったものもありますが、水力に関しては雨量と傾斜に基づく計算によって摘出された適地と呼ばれる部分ですが、実際に足を運ぶと全く違っていることが多いです。今後行う際は、REPOS で実際に水が利用できるか調査することが必要だと思っています。地域での電力確保という意味で富山県は良い地域だと私は考えておりますので適地調査を体系的に行うことをやっていただければと思ったのが1点。もう1点は小水力発電を開発していくときに、適地があってもマッチングに苦労されたという話を先ほどしましたが、実際に誰が開発するのかということは非常に難しい問題であります。特に民間は採算性を気にしますが、マッチングを進めるためには、民間と行政をつないでいけるような中間組織が重要な位置づけになると思っています。あまり日本では形成されにくいですが、逆にヨーロッパでは実効的に動いておりますので、そういった組織形成をしていただけると小水力発電の開発が進みやすくなるかと思っていますので、意見ではありましたが、検討いただければと思います。

【議長】

実際に行政で実践していくにあたってマッチングの苦労について具体的な説明をいただければありがたいと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

調査につきましては、我々も REPOS の方を使っております、実際にそこから数か所抽出しているというところで、今後も情報提供については行っていこうと思っております。苦勞につきましては、やや費用がかかることや採算が合うかがやはり問題になっておりまして、実際に相談があったところもございます。相談段階にあるところについては、設計等これからしていかなければならないということであまり進んでいないのが現状です。

【委員】

資料1の10ページ、水を生かした文化・産業の発展について、富山の水は間違いなく優れたものであると思っております。その魅力を県内外、国内外に対しても我々普及を行っておりますが、資料の中の「水を活かした観光の振興を図る」について、何か具体的なことはされているのでしょうか。

【事務局】

富山県は「世界で最も美しい湾クラブ」に富山県が加入しております、富山湾を世界にPRしております。また、湾岸サイクル、富山マラソンのようなものは海をポイントとしておりまして、特に富山マラソンについては海外からの参加者が多数いらっしゃいますので、海外の方々に向けてのPRになっていると思います。また、以前中国に訪問し、富山の水を飲んでいただくといったイベントも行いました。きれいな天然の水は中国の方々からの関心が高かったように個人的には見受けられました。このように水そのものが観光資源になりうると思っております。具体的な事業については後ほど連絡させたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上